

2012年10月のアンガージュマンの予定

利用は会員となり、フリースペース、キックオフプロジェクト、相談・コーディネート、学習サポート等をお選び下さい。まずは電話などでお問い合わせ下さい。見学も大歓迎！

月(Mon)	火(Tue)	水(Wed)	木(Thu)	金(Fri)	土(Sat)	日(Sun)
1 学習サポート	2 学習サポート	3 12:00 昼食会(300円) 14:00 ビジネス講座 学習サポート	4 13:00 ボーリング(実費) 学習サポート	5 11:30 農業体験(長井) 学習サポート	6 ※	7 ※
8 ※	9 学習サポート	10 12:00 昼食会(300円) 14:00 ボランティアミーティング 学習サポート	11 山形物産市(はるかぜ書店前) 学習サポート	12 学習サポート	13 ※	14 ※ 14:00~16:00 保護者会
15 学習サポート	16 12:30 カラオケ(実費) 学習サポート	17 12:00 昼食会(300円) 14:00 ラッピング講座 学習サポート	18 学習サポート	19 11:30 農業体験(長井) 14:00 お菓子作り 学習サポート	20 ※	21 ※
22 上町商盛会 収穫祭 学習サポート	23 学習サポート	24 12:00 昼食会(300円) 学習サポート	25 リエゾン 物産宅配 学習サポート	26 学習サポート	27 ※ Halloween お泊まり会	28 ※
29 学習サポート	30 学習サポート	31 12:00 昼食会(300円) 学習サポート	アンガージュマン・ブログ 随時更新中 あいおうとの日常の様子を中心に、ほぼ毎日(!?)更新しています。アンガージュマンの雰囲気を感じていただけたらと思います。ぜひ、ごらんください！ アンガージュマンブログ で検索			

今月のボランティア募集

イベント	日付	定員	主な活動内容
フリースペース	土日祝日除く	5名	話やゲームの相手、ともに過ごす
物産市	10/11(木), 22(月)~24(水)	3名	物品販売、品物陳列、チラシ配布
物産宅配	10/25(木)~26(金)	3名	検品、仕分け、梱包、配達
収穫祭	10/22(月)~24(水)	5名	福引の補助
昼食会	10/3, 10, 17, 24, 31(毎週水)	3名	調理、盛りつけの補助
夜のフリースペース	10/5, 12, 19, 26(毎週金)	3名	ともに過ごす
ハロウィン	10/27(土)	3名	準備、ともに過ごす
通信発送作業	10/31(水)	3名	通信の折り、封入、封止め
下校時の防犯	平日14:40~16:00	2名	町内の巡回、見守り

参加ご希望の方はアンガージュマンまで、ご連絡下さい。 TEL 046-801-7881

物品募集中
ご家庭に眠っていたら、ご寄付ください。
未使用切手・ハガキ・一筆箋
皆様へのご連絡に使用します。

アンガージュマンとはフランス語で社会参加という意

2012年(平成24年)

10月1日 発行

Le Engagement



NPO法人アンガージュマン・よこすか

発行所：〒238-0017神奈川県横須賀市上町2-4 電話：046-801-7881

http://engagement.angelicsmile.com/ 発行責任者：島田徳隆 編集責任者：石井利衣子

http://blog.canpan.info/engagement/(ブログ) engagement@angelicsmile.com(メール)

第104号

多様化する不登校に早急な対応を

文部科学省より学校基本調査の速報値が発表された。既に報道されているのでご存知の方もいるかもしれないが、神奈川県の不登校の児童生徒の数が前年に比べて減っており、これまでの一位の座を東京都に譲った。平成23年度の公立学校(小・中学校)における長期欠席者数のうち、不登校は9,281人で521人減少している。神奈川県は特に私たちNPOとの連携を強くうたっており、ようやくその成果が出始めたのかもしれない。ただ、残念なことに高等学校の長期欠席者数は7,135人と前年に比べて578人増加している。

全国平均をみると、小学校における不登校の割合は0.3%だが、中学校になると2.6%に上昇する。よく、中学生になると勉強や部活などで忙しくなり、不登校が増えるのだ、という議論を聞く。しかしながら、平成17年の国立教育政策研究所の調査によると小学校に既に不登校相当の経験をしている児童がおり、その群が中学校で不登校になる、という結果が出ている。高等学校の長期欠席者数も似たような理由が考えられるのではないだろうか。

さて、数字の話を冒頭にしてみたが、どうも現場での印象と異なる部分がある。横須賀市は神奈川県内でも不登校の児童生徒の割合は非常に高い(中学校で全国平均のおよそ1.7倍)。では、行政や教職員が手を拱(こまね)いているのかといえば、全くそうではない、と言える。むしろ情熱的な行政担当者が一所懸命に取り組んでいる。生徒達に手厚く取り組んでいる学校もある。しかし、市内の適応指導教室や相談教室、当法人も含めたNPO等に通う子ども達が減っている。不登校の減少率に合わせて減っているならば問題にならないが、どうもそうではなさそうだ。

いじめだけでなく貧困や虐待、特に理由無く学校に行かないなど、不登校の理由も多様化し、対応に苦しんでいるのが実情だ。もしかすると地域性も関係有るのかもしれない。ただし、どこの支援にもつながらずにいる子ども達が増えているならば、早急な対応が求められる。数字だけでなく、背景を調べ、適切な支援をしなくてはならない。(島田徳隆)

(参考文献 国立教育政策研究所『生徒指導資料第2集「不登校への対応と学校の取組について—小学校・中学校編—」』2004年
川崎市総合教育センター『小学校と中学校の連携を中心とした不登校対策の研究』2005年
国立教育政策研究所『中1不登校の未然防止に取り組むために』2005年
文部科学省『学校基本調査平成24年度速報』2012年
国立教育政策研究所『不登校・長期欠席を減らそうとしている教育委員会に役立つ施策に関するQ&A』2012年)

さかのうのたばごと しまだのりたか

内面をちょっとばかりだけ磨いてきたおかげで、まだ鈍いながらも輝いてきたように思う。意識してこなかったが、随分と個性的な人物になってきた。ここでそろそろ外面も磨いてみようと思いはじめた。手元不如意のため、満足いかないとは思いますが出来る範囲内で挑戦してみる。

先日は10数年ぶりに美容院に行ってきた。しかも今までしたことないような髪型になり、それがまた似合うことが意外であった。挨拶回りのおかげで靴下がダメになり、靴下くらいなら、と老舗洋品店で靴下を購入した。以前友人に勧めたスーツが仕立て上がっており、そのカッコよさにちょっと惚れた。スーツが仕立てられるように頑張ろう、といういい機会になった。

和装を復活させようとも思うが中々…。公私のメリハリをつけて、見た目も中身も爽やかなナイスガイを目指しますよ！…あれ？ もう既になっているか！ 理事長チェックをよろしくお願ひします♪

ネクスト テスト結果に一喜一憂…

夏休みも終わり、中学生の多くはテストがありました。Y君は手応えを感じていた科目と、実際に返却されたテスト結果の違いに驚いていたり、Kさんは「だめだった」とテストを終えた後も返却後も話していたりと、それぞれの向き合い方でテストをこなしていました。

学習は積み重ねのため、テスト結果に表れるには時間がかかります。しかし、テストのように数値で結果が示されると子ども達はそこに一喜一憂してしまいがちです。そして、それが学習意欲を減退させている一因のようにも感じられました。そういった気持ちを払拭し、いかに楽しく学習に向き合う時間を持てるかという事は、他の先生方含め今月は特に力を入れていたように思いました。

テストの結果も受けつつ、そういった時間の積み重ねが子ども達の大切な時間になるような学習を来月から提供できればと思います。(鈴木 篤志)

キックオフ 玉こんにゃく完売しました。

山形物産市を神奈川県青少年センター別館の青少年サポートプラザのイベントに出店してきました。県内の同じようなNPO団体が集まり、毎年9月にフリマを行っています。今年は、加工品と山形名物玉こんにゃく・被災地支援としてチョコボ(食べるちよこっとボランティアの略：中身はチョコレート菓子)を販売してきました。例年とは販売場所が違うので、皆のびのびしながら販売できて、とても面白かったのでは? と思います。

harucafeでは、スイングドアに続いて新たにキッチンと通路の仕切りになる壁を取り付けました。保健所の許可申請がまた一歩近づきました。

はるかぜ書店では、新たに一人研修生が加わった事で、研修生同士教えあう事が活発に動き始めてきていい傾向だなと感じました。(石川藍)



昼食会 色々な料理を作りたいのは山々だけど～

現在のアンガージュマンはワンフロア。お台所が独立している訳ではありません。威力のある換気扇が付いているとはいえ、調理中、室内に油が漂うのはどうも…。だって本屋ですし…レンタルBOXもありますし…そこで、食材毎に“ゆでる”ことが多くなります。お肉などは余計な油も除けますしね。そして、後から軽く炒めたりして風味付けしたりしています。だからという訳ではありませんが、冬瓜も2度湯でこぼしてレモンと砂糖で煮てデザートとして登場します。制約だらけのキッチンで協力して下さるボランティアの皆様、ありがとうございます。(萩原恵子)



あばうと 涼しさを求めて…熱唱!

9月に入っても残暑が厳しい中、あばうとのメンバーは涼し居場所を求めてカラオケやボーリングに出かけました。私が参加したカラオケでは、AちゃんNちゃんKちゃんに、ボランティアのMちゃんも加わり、同行した大人4人が曲を入れる隙がないほどの勢いで熱唱し、満喫したようです。フリースペースでは、Nちゃんが大人も子供も巻き込んで、トランプやUNOを始めるのですが、自分が負け始めると…「あきたー!」の一言でゲームが終了…こんな光景がよく見られました。10月は涼しくなり始めるので、体調に気をつけて活動していきたいものですね。(ボランティア 長崎鞠乃)

ボランティア 専門的な力を。

市民活動サポートセンター主催「夏の市民活動・ボランティア体験」では、参加団地による「P-1 グランプリ」をボランティアの受け入れとともに同時開催しておりました。P-1のPはポスターのこと。皆さんの目にも触れたかも知れませんが、市役所などにも掲示していただき、一般投票により順位を決めることになっていました。集計の結果、当法人のポスターは第2位(10票)になりました。今回のポスターでは、リエゾン団のチラシ作りでも、力を発揮してくれた経験のあるボランティアさんにお話し、作成いただきました。なかなか活動のなかで、趣味や知識など、どちらかという専門的な力を発揮していただけるボランティア活動は少ないのですが、こうした機会などを提供できればと思っています。(石川隆博)



相談・カウンセリング カウンセリングと現実の狭間で

8月末、大学時代の友人9人と新宿の飲み屋で歓談した。サークルの仲間だ。40年前、政治の季節だった。大学解体の全共闘運動後、僕らは文化団体連合会を担い同じ学生会館で過ごした。本法人初代理事長小柳とも同期、この学館で3年程一緒。何時の間にか彼は消えていた。大学内では学生会館の自主管理・教育闘争、外には70年安保後のベトナム戦争・米軍基地・三里塚(成田空港)・日韓(在日)・女性解放等、闘争課題は尽きなかった。連日、熱烈な討議と活動を繰り返した。

さて昔話と健康談義が終わり、各自現在のエピソードに。主婦も退職主夫も、学校の校長職や企業の部長職、福祉施設や子ども施設の長もいる。僕がカウンセラーであることを受け、「当時から聞き上手」であったとの評価の一方、皆口々に「人の話を聞くのは苦手だ」となった。僕は臆して会話を続けなかった。僕は「人の話を聞くのが得意なのか? イヤ、そうではない」と自問自答していたのだ。結論は「言葉を引き出すことがカウンセリング」。人は語るべく言葉を持っている。ただ会話の機会を失い、自分の心の奥深くに眠らせてしまう。黙し、時に逸らし、笑って次の瞬間下を向いて言葉を秘めてしまう。もちろんその時間は必要なのだ。多くの言葉は、自己を責める言葉である。責める言葉は無くなることはない。人に向けて吐き出し、自分の耳で聞いてこそ、その辛さから解放される。今日も僕は、子どもや若者の言葉にならない言葉を、引き出そうと思う。お節介にも、9月も延べ20人と会話させて頂いた。連絡下さい。(滝田衛 046-801-7881 engagement@angelicssmile.com)

教育コラム 第3回 いじめと性格直し(3)

中学3年のクラスであったこと。A子が嫌われている。机と机の距離が微妙にあいている。A子の机はよけて通る子が多い。僕は放課後、彼女に声をかけた。泣いて訴え、理由は分からないと言う。周囲の子に聞くと「口が悪い」「態度がでかい」「汚い(?)」と言う。再度彼女に聞いた。小さい時から体が大きかった、色が白かった、遊んでもらえなかった。更にお祖父さんが外国人、いわゆるクォーターで肌が白い。A子の孤独と劣等感(差別被害)を感じた。

いじめられているA子の立場に立つ。これがクラスづくりだ。「教師は中立平等でなければ!」なんて戯言をいう教員は逃げている。もしくは自己過信派だ。学級の分析をする。いじめの中心派、取り囲み派、無関心もしくは独立派。この分析は生徒の中においてこそ可能となる。そして学級委員や班長会を組織する。こういう学級会が子どもを育てるし、教師も鍛えられる。

学級会を再現しよう。学級委員と班長会長がいじめ問題を告発し改善策を提案する。改善策は、①いじめない ②性格直しをしない ③言いたいことは帰りの会で言う ④助け合う だ。班会議を行う。そして「Aさんは言葉使いが悪い」「整理整頓ができない、忘れ物が多い」「注意しても嫌な顔をする」「もっと性格を直し仲良くしてほしい」「いじめられてもしょうがない」、次々と意見が出る。提案者のリーダーもタジタジ。事前の作戦会議は「何が何でもA子を守る」だ。リーダーが発言する。「僕も言葉遣いが悪い」「私も忘れ物をよくする」「私なんかすぐ不機嫌になって迷惑をかけている」と。

A子がいじめている班長のB男が「俺も性格悪いと言われる。でも直せない」と言った。この一言が会議を変えた。「今発言したB男が一番いじめています」と取り囲み派C子が発言した。沈黙となった。そこで教師はA子に発言を促す。「私をいじめないでください」とA子は一言いう。リーダーたちはA子に拍手した。満場一致で改善策は可決。いじめのB男が発言したいという。「俺が悪かった。小学校の時に俺もいじめられていた。ゴメン」と。

学級会でのA子の発言は事前に了解しておいた。終了後A子は笑顔を返した。

(滝田衛)